

# 都市医師会長からの抱負

## コロナ禍での再選

江別医師会

会長 ささなみ てつお  
笹浪 哲雄



この度の総会で再選していただきました。2期目も全力で、また、淡々と取り組んでまいります。昨年、本年の総会での会長あいさつから、何を語ったのかを載せます。

**【2021年6月】** アルファ型変異ウイルスのため、5月に入って全国的に感染者の急増をきたし、第4波が形成されました。北海道としても1日700人を超える状況となりました。北海道医療非常事態が宣言され、直後に緊急事態宣言が発令されました。入院治療、ホテル療養ができずに自宅療養を余儀なくされる方がたくさんおられました。市内においても日下先生（訪問診療を主にしている）や応援で来てくれたDMATの先生方に対応していただきました。2020東京五輪についての個人的意見を表明します。医療従事者として、医療体制の状況や今後の第5波などから、東京五輪の開催中止を訴えます。開催するにしても無観客とするべきです。橋本聖子会長は自身の体験として、毎回のオリンピックは感染症との戦いだったと述べています。2019年国連総会で「オリンピック休戦決議」がなされたことをあげています。これはオリパラ期間の7日前から7日後までの59日間を世界が休戦するという内容です。

**【2022年6月】** 種々の会議や会合が中止になる中で、この1年間、感染対策を取りながら（会場を変えて広くし、換気にも注意）、毎月の理事会を開催してきました。会の前段では、江別市新型コロナウイルス感染症対策室の皆さんに出席していただき、PCR検査、コロナワクチンの接種方針また接種状況など情報をいただき協議しました。また、江別保健所の皆さんにも大変忙しい中お越しいただき、感染状況の推移や診療体制の確立など話し合ってきました。行政とのスムーズな連携が取れている背景となりますが、感染対策の中心者として佐藤副会長、妊婦さんの対応で田中理事（産婦人科）、在宅医療者の診療対策構築で増谷理事、日下理事には大変お忙しい中働いていただきました。

次にウクライナ侵攻についてです。ご存じのように、オリパラの休戦協定の最中であった2月24日から始まって早くも4ヵ月が経ちました。知りうる情報では、多くの学校、病院、民家などが破壊され、多くの民間人が犠牲になっております。一刻も早いロシアの侵略戦争が終わることを望み、祈ります。

## 会長に再選されて

函館市医師会

会長 ほんま さとし  
本間 哲



この6月の総会で、5期目の会長に選任選定されました。

現在進行形のコロナ禍は東京で感染者増加が高止まりを見せてはいますが、依然として北海道では収束の兆しが見えません。国が行動制限をかけない状況では、特に夏の北海道は旅行者が集中するため当然とも思われます。

函館でも軽症感染者が圧倒的に多く、およその数字を見ると入院療養120人、ホテルの宿泊療養60人ですが、自宅療養は2,600人にも上ります。

自宅療養は感染した家族を完全に隔離することは難しく、多くは家庭内感染を起こします。これが感染者の減らない理由の一つですが、彼らが熱発など軽症でも救急要請するため、二次救急の現場が大変混乱してしまいます。メディアを通じて周知しますが、結局は救急隊のトリアージで搬送病院を救急告示病院などに振り分けることになりました。

函館は市内のみならず渡島と檜山の3医療圏を広域で見ようと、コロナ感染が拡がり始めた当時より3指定病院や二次救急病院群、協力病院群と連携を取ってきた経緯もあり、各病院が感染者受け入れに協力的です。

会長を仰せつかった8年前は国が医療を地域で完結させるべく、在宅医療と介護の連携を唱えた年でした。私はともに歩む行政に、在宅医療から『在宅』を外し『医療介護連携』をしようと持ち掛けたのです。行政側は難色を示しましたが、在宅や施設で療養中も突然急性疾患を起こすことは多々あり、当然ながら救急搬送されるわけです。急性期を乗り越え退院後は在宅や施設へ復帰し介護の分野に委ねるといふサイクルですから、連携は当たり前のことでもあります。行政側にも理解者がいて、程なく『函館市医療介護連携推進協議会』なるものが立ち上がりました。会長職8年間はこの協議会と共にあります。コロナ体制も急変時対応分科会が同じ顔触れで、対策は容易でした。医師会活動は行政と如何に連携出来るかが大切と考えており今後も続ける所存です。

## 5期目を迎えて

余市医師会

会長 小嶋 研一



今年7月の定時総会・理事会で余市医師会会長を拝命いたしました。4期目の2年間は発熱外来、ワクチン接種など新型コロナ感染症対策中心の医療活動で現在もなお同様の状態です。医師会活動はかなり制約を受け、毎月行っていた全員協議会も書面開催を余儀なくされ、対面での全員協議会はこの2年半で3回程でした。新型コロナ感染流行以前の全員協議会は協議会後の懇親会で、会員同士のコミュニケーションを高めていましたが今はそれも無く、この2年半全く顔を見ない会員も多くいます。道医師会の集まりもWeb開催が中心で、各地の顔なじみの先生方にも直接会話することも無くなりました。今後の見通しが立たず、非常に閉塞感の強い日々を送っています。5期目の抱負とのことですが全く今後の地域医師会活動について希望的な思いは浮かばないのが現状です。全ての社会活動活性化のため、新型コロナ感染症に対しては新たな感染症分類を作るか5類感染症とするか、できるだけ早期に現在の2類相当からの脱却を図るべきだと思います。また抗新型コロナウイルス内服薬の治療薬としての位置づけを一般臨床家にも早急に明確にすることが必要であると思います。

私見ですが現在流行しているオミクロンBA1～BA5株感染者の多くは軽症例ばかりで特別な治療薬を必要とする症例は殆どありません（4月～8月21日当院における新型コロナ感染患者数162名で、80代の男性1名がコロナ病棟入院治療し現在回復、その他は軽症患者です）。現在2種類の内服薬が承認され使用されていますが使用例数はかなり少ない状態で、日本国内でははっきりした評価はまだ出ていません。本当に必要な薬なのか不明です。一方ワクチン接種は発症予防、重症化予防に明らかに有効です。多くの国民にワクチン接種をすることは新型コロナ感染症をウイルス感染症とし、行政的な制約を軽減して国民の社会生活回復に有効な方法とします。今後も余市医師会として積極的にワクチン接種を推奨していきたいと思っています。

## 3期目を迎えて

室蘭市医師会

会長 野尻 秀一



この度、6月の医師会総会・理事会にて再任され、3期目を務めることになりました。

2期目はなんと言っても新型コロナウイルス感染症です。北海道は2020年2月下旬からの第一波に始まり、現在第七波到来中であり、北海道全体でも新規感染者が連日8,000人を超え、ピークアウトがまだ見えない状態です。医師会としては室蘭市、登別市と連携しながら、PCR検査センターの開設、発熱外来の設置、市立室蘭総合病院、日鋼記念病院、製鉄記念室蘭病院の協力の下、重症度に合わせた入院病床の設置（最大60床）を行ってきました。またワクチン接種については各医療機関での個別接種、自治体での集団接種がほぼ順調に進んでおり医師会の先生方、各医療機関の職員の方々に感謝いたします。まだまだ収束のめどは立ちませんが、行政と共に住民の健康寿命の延伸に向けて頑張っていきたいと思っています。

この地域でも人口減少、少子高齢化の波が他の地域より速いスピードで進行しています。室蘭市も2020年85,047人が2040年には55,050人へ減少し、登別市も2020年47,150人が2040年34,485人へ減少し、高齢化率も2040年室蘭市39.4%、登別市45.9%となります。超高齢化社会を見据えて貴重な医療資源の集約化を目指し、2018年9月室蘭市地域医療連携・再編等推進協議会が発足しました。2020年2月まで12回行われ「第2次中間とりまとめ」が示され、「高度急性期を担う医療機関を東室蘭に、回復期・慢性期・在宅医療・介護を中心とした医療機関を蘭西地域に確保する。市立病院は地方独立行政法人への移行も含め、経営改善に努力する」ことで合意がなされましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により協議会は開催されず、今年2月凍結となりました。問題は①市立病院の債務超過及び病院企業会計への16億円/年の拠出、公立病院改革プラン策定の遅れ、②医師の医育大学から地方への医師派遣の集約化など多々あります。この地域住民の健康を守り、ひいては西胆振という2次医療圏の医療を維持していくため、俯瞰的な観点から3病院には考えていただき、当医師会としても潤滑油として、将来の地域住民の安心できる医療体制の確保に向けて議論を進めていきたいと思っています。

## 医師会長に再選されて

胆振西部医師会

会長 坪 俊輔



この度、胆振西部医師会（伊達市・壮瞥町・洞爺湖町・豊浦町圏）会長に再選された坪です。このコロナ禍という閉塞的な状況の下で、ここ2年半ほどは通常の医師会活動は殆ど行えず、再選とは言っても理事、監事はすべて留任に近い形をとらざるを得ませんでした。本稿を書くにあたり、目新しい話題はなく、原稿の体裁を整えるのに四苦八苦しているところです（何度も締め切りを延ばしてもらいすみません）。

当医師会ではこの間、諸先生方に新型コロナワクチンの集団接種、個別接種、高齢者施設への訪問接種に精力的にご協力いただきたいへん感謝申し上げます、ありがとうございました。救急の日になんで、9月8日に聴講者の人数制限をしながら市民健康講座を開いたのが当医師会としては本当に久しぶりの公式事業です。

話は脱線しますが、先日2年半ぶりに行政主催の対面の会議に出席しました。やはり、出席された方の息使いを感じながらの議論に勝るものはないと痛感したところです。

今後の当医師会の課題について考えてみると、まず第一は会員数を増やしてかつ若返りを図ることが最優先です。ちなみに10年前、平成24年当時の当会会員数は89名→現在81名、このうち60代以上が53名と65%を占めています。会員の自然減は止めようもなく、若い先生方に多く入会していただき、当地に定着していただくのを期待するばかりです。

次の関心事は、コロナ禍の影響もあってか議論が中断している二次医療圏再編問題、それにリンクする隣町室蘭の3総合病院の統廃合問題です。胆振西部医療圏は当然室蘭の医療機関のバックアップなしには成り立たず、再編問題からは目を離せません。いずれにしても一日でも早くコロナ禍が終息して以前の日常に戻ることを願う毎日です。諸先生方、体調に気をつけてもう一息頑張りましょう。

## さてこれから・・・

三笠市医師会

会長 石黒 敏史



先日、道医師会より「郡市医師会長再選の抱負」と題する原稿執筆の依頼が届いた。当三笠市医師会では、会長や役員選挙を行う程の員数がおらず、誰かが何らかの役職につかねばならない小所帯である。メンバーとして一番の古株が私だったので、何となく会長に納まってしまった次第で、このような言い方をすると、無責任な奴と、お叱りを受けそうであるが、実際そうなのだから仕方ない。そんな人間に会長職はさせておけない、ということであれば、どなたか適任者に代わっていただければ幸いである。とは申しても医師会業務に空白の時間を作る訳にもゆかず、何とか職責を果たせるよう頑張っている。三笠市の医療を守る為には、行政やその他、医療福祉施設との連携を上手くやってゆかねばならない。

当市の医療施設は、人口やその他、諸問題の為減少してきた。特に市立病院の縮小化を余儀なくされている。この為、近隣の医療施設には、三笠市民が大変お世話になっており、誠にありがたく感謝の次第です。

道医師会との関連業務としては、会長職についてからこれまで、道医師会主催の会議が、コロナ等の関係でほとんどがリモート会議となった。一度だけ札幌へ出張ただけで、少し寂しい気もするが、出向かなくて済むので、私個人としてはありがたい。

当市における医学関連行事も、コロナの為に、ここ数年開催していない。市民に対して、健康・疾病について啓蒙する機会を失っているが、テレビその他の情報で、専門家を交え、針小棒大に喧伝している。真面目で権威に対して素直な人々は、日々努力し頑張っている。別に当医師会が講演会を開催することもないか・・・と思ったりもする。しかしながら医師会の役割は多岐に渡り面倒な案件も多い。近隣および市内の医療施設や諸先生のご協力を仰ぎつつ、何とか三笠の医療を守ってゆければと願っている。

## 今後の美唄市医師会の課題

美唄市医師会

会長 いど 井門 あきら 明



今年6月の美唄市医師会定時総会において、会長として再任されました。7期目になりますが、気持ちを新たに医師会の職務に取り組む所存です。

2年前の会長再選時に、解決すべき美唄市医師会の長年の課題として取り上げた市立美唄病院の建替え問題は、市が設置した「市立美唄病院建替え基本構想・基本計画策定市民委員会」での議論を経て、2024年春の開院予定で建替えが決定しました。この問題は、私が2009年に会長に就任した時には、既に医師会の最重要検討課題のひとつと認識されていましたので、実に10数年の時を経てようやくここまで漕ぎ着けたという感慨があります。市立美唄病院は、当市の基幹病院として市内の救急医療を一手に担い、小児医療と透析治療を行う市内で唯一の病院です。建築後50年以上経過し老朽化した市立病院を建替えることは、市内の医療環境を守るための喫緊の課題でしたので、ひとまず安堵しております。

さて、今後の市立美唄病院の課題は医師確保です。これは、どこの地方病院にも共通の課題かと思えますが、このことに関して美唄市医師会が貢献できることは限られています。しかし、病診・病病連携を進めてそれぞれの医療機関が期待される役割を果たすことが、各々の医療機関の発展に繋がり、基幹病院が求められている医療に専念できる環境整備にも資することであると考えます。さらには、周辺自治体の中核病院との連携を最大限に強化し、将来的には広域の多数の医療機関を傘下におさめる地域医療連携推進法人を設立し、医師を含めたスタッフの人事交流や経営の効率化を図っていくことが、継続的に地域医療を守っていく上でひとつの方策ではないかと考えています。しかしながら、これは自治体間で討議し綿密に検討すべき事案であり、市長や市議会議員の皆さんに早急な議論をお願いしているところです。

この地域の医療を将来にわたり守るために、どのようなことができるかを慎重に考え、討議し、行動することが私ども医師会に求められている課題であると捉え、決意を新たにしております。

## 滝川市医師会長再選の抱負

滝川市医師会

会長 こにし 小西 かつひと 勝人



令和2年5月の会長選挙において辛くも1票差で当選して以来、早いもので2年が経ちました。ちなみに今回は無投票再選でした。

この間ずっとコロナ禍であったため医師会の飲み会は一度も行えず、残念ながら就任祝いも行われておりません(笑)。

だからといってその間何もしなかった訳ではなく、会費の大幅減額、旧看護学校校舎の譲渡、コロナワクチン接種対応とやることは山程あったので、やるべきことはしっかりやり、無駄なものはとにかく省く方向性で、多忙な日々を過ごしてきました。

他にも、全道ゴルフブロック対抗への初参加も果たしました。こちらは芦別市医師会長橋本先生や、個人的に助っ人を頼んだ先輩方の協力のおかげもあり堂々7位入賞することができました。ご協力ありがとうございました(^\_^)。

今後の目標は、2ヵ月に1回行っていた懇親会(飲み会)の復活、ゴルフブロック対抗の3位以内入賞、日常行事の再開、ハンディ片手を目指すといったところでしょうか。

よろしく願いいたします。

## 雑感と不惑・不渡り

北見医師会

会長 よしだ しげお  
吉田 茂夫



「郡市医師会長・再選の抱負」についてですが、まずは、私並びに北見医師会について日頃から北海道医師会の先生方、事務局の方々にお世話になっておりお礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

私事になりますが、間もなく医師になってから50年を迎えようとしています。今回、残りの人生をどのように充実して過ごすかを考えてみました。まずは過去の仕事を振り返って思い巡らしてみました。幸いにして、卒業後の医局時代から良い先輩・同僚にも恵まれ、充実した臨床医生活をさせていただきました。立場としては研究生、教育職、研究職、行政職、さらに様々な立場の管理職を経験させていただき、その間米国留学の機会も与えられました。つまり専門を極めて一芸に秀でた専門医の先生方とは真逆の、多種多様な道を歩いてきました。与えられた様々な立場・役割の中で楽しく、いろいろな経験をさせていただいたことは幸いな歩みだったと思われました。

翻って、これから何をしたいのか（出来れば弱い方の役に立つ仕事をしたいと思っています）をしっかりと迷わず（不惑）選択するため、「したいことをひとつだけ選べ！」と自らに課題を課したところ、意外にも以前兼務していた産業医のことが次々と思い出され、自分でもびっくりしました。家庭訪問や職場訪問をした折にみた、相談職員の厳しい状況下において保健師とメンタル相談者が共に流した大量の累積の涙で回復して職場復帰し、家庭崩壊が守られ子供さんの学業継続が叶ったこと、あるいは職場上司を説得して配置転換によって笑顔を取り戻した青年も思い出されました。そんなことで長らく更新していなかった日医認定産業医資格の研修をスタートさせたところでもあります。タイトルの漢字確認の為の国語辞典で不惑の隣に不渡りが載っており、今回多くの方々に不渡りに相当するような迷惑をかけてきたことにも気づかされて、このタイトルとしました。迷惑を受けながらも温かく見守ってくださった方々に感謝申し上げます。

## メトロプラザ

遠軽医師会

会長 たなかみのる  
田中 実



本年4月の総会で10期目の再任となりました。就任時は会長職にはまだ若いと思っていたのですが、いつの間にか還暦も過ぎ、そこそこふさわしい年齢？ となりました。

20年前を振り返れば、開業医の高齢化に病院の名義貸し問題が重なり、病院2件、診療所6件が次々と閉院となっていました。地方での医業経営は厳しさを増すなかで、当時の理事会では当地域単独での医師会維持は困難という意見が多数を占め、自分も同感でした。そのような状況下にあって地元出身の先生はもとより、「遠軽愛？にあふれた」先生方により現在まで診療所8件が開設され、何とか医師会としての活動が継続できていることはうれしい限りです。

ただ喜んでばかりもいられません。今後人口減少が急速に進むなかで当地域の医療資源を有効活用しながら切れ目のない医療・介護サービスを提供していくためには、医師個人の頑張り頼るばかりでなく、医師会が中心となり会員の先生方それぞれの役割を認識してもらい、お互いが信頼できるタッグを組んでいく必要があります。現在も終わりが見えないコロナ禍にあって、各医療機関では感染対策はもちろんのこと、スタッフの確保やメンタルケアにも気を配らざるを得ない状況が続き経営も厳しさを増しています。今後の見通しも立たないなかで、医療機関の経営体力の低下は地域医療崩壊に直結することから、町のみならず道医師会などを通して道や国に向けて各種の支援要請を働きかけ続けたいと思っています。

最後に町の明るい話題を一つ。多くの町民が待ち望んだ音楽ホール（遠軽町芸術文化交流プラザ「メトロプラザ」）が8月にオープンしました。木の温もりが感じられ優れた音響効果をもつ反響板を備え、まさに「吹奏楽のまち」にふさわしい「大ホール」をはじめ、「小ホール」や「多目的室」など年配者から子供まで誰もが芸術活動を行うに最適な施設となっており、地域活性化の一翼を担ってくれることを期待しています。

## 医師会長再任雑感

美幌医師会

会長 田中 克彦



早いもので、私が美幌医師会の会長に就任し、6年が経ちました。この2年余りは、医師会活動といえば、コロナ対策に明け暮れています。保健所と連携し、当地域の感染状況のモニタリングを行い、医師会でPCR検査センターの設置も行いました。また、コロナワクチン接種体制の構築と実施、発熱外来の設置など対応に追われていたように思います。どの医師会もこの未知なるウイルスの対応に苦慮されていたと思いますが、コロナ対策に、時には試行錯誤が続く中、当会においても会員の協力には頭が下がる思いです。総会や理事会もコロナ禍の影響で満足にできない状態が続き、会員同士の交流も以前より希薄になっているように私は感じ始めました。

令和4年8月現在、美幌医師会の会員数は23人で

す。平成27年度には最大33人の会員がいましたが、勤務医の減少と開業医の閉院などで、会員数はあっという間に減少しました。今後、美幌医師会として自治体と協力し、勤務医の確保及び開業支援体制の構築を図っていきますが、早急な対応は必須です。

私は、多職種連携の勉強会の代表をしています。この会では美幌町と津別町の医療・介護従事者を対象に、効率の良い医療介護連携のあり方を考えています。その中で、いつも感心させられるのは津別町の医療と介護連携の効率の良さです。少ない人材の中で頼み事に迅速に対応し、情報の共有も行い、側から見ると和気藹々と「顔の見える連携」を実践しています。この連携がいかに大事であるかいつも学ばせてもらっています。

今後は、医師会も、会員数を増やす努力と共に、活動を円滑に行うためにも、会員同士の交流をより密なものとし、「顔の見える連携」を図っていくのが、私の会長4期目の課題なのかなと漠然と考えるようになりました。それにしても、何時になったら酒を酌み交わし会員同士が語り合える日が来るのでしょうか。

## お知らせ 第49回（令和4年度）全道医家囲碁大会 中止のお知らせ

令和4年11月に札幌市内で開催を予定していた第49回（令和4年度）全道医家囲碁大会につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と参加者の健康・安全を考慮した結果、開催を中止することといたしましたので、ご案内申し上げます。



—全道医家囲碁連盟事務局—